

門司港エリアにおけるフィールドワーク&ワークショップ連動型・
探究プログラム「あるこう！もじこう！」の実施報告

門司港エリアにおけるフィールドワーク&ワークショップ連動型・探究プログラム 「あるこう！もじこう！」の実施報告

北九州市立大学地域創生学群 高嶋瑞

北九州市立大学地域創生学群 岩下みずほ

北九州市立大学地域創生学群 中島花凜

北九州市立大学地域戦略研究所・教授 小林敏樹

1. はじめに

本プログラムは、株式会社 JTB と北九州市立大学地域創生学群小林ゼミの協働による企画であり、主に福岡県外の修学旅行生を対象に実施している。主な内容は、北九州市の過去・現在・未来を題材に、大学生と協働で社会課題を自分ごととして考えるフィールドワーク&ワークショップ連動型・探究プログラムである。フィールドワークの舞台は、北九州市門司区の門司港エリア（主にレトロ地区と栄町銀天街）であり、「景観」、「にぎわい」「商店街・リノベーション」の三つの視点から地域を観察し、地域の活性化やまちづくりを自分事として考えることを目的としている。また、「思考力・判断力・表現力」や「社会や仲間と関わる力・主体性・実行力」といった資質能力を身につけることも目的としている。

2. これまでの実施状況

本プログラムは、2017年から、北九州市立大学地域創生学群小林ゼミと株式会社 JTB 北九州支店が連携して教育プログラムとして開発を開始し、2018年6月4日の初めの実施以来、今年度で8年目を迎える。コロナ禍の影響（コロナウイルスの感染拡大により修学旅行自体が中止になるケースが多発）を受けながらも毎年2回の実施を目標に活動している（表1）。2回の内訳としては、1回目はゼミの3年生が中心となって実施し、2回目はゼミの2年生が中心となって実施する。毎年、活動の質を維持しながら、下の学年へと継承、引き継ぎを行なっている。

表1：これまでの実施状況一覧

2018年度	6/4 浅野高校（横浜市）30名
2019年度	実施なし
2020年度	実施なし
2021年度	3/11 福岡女学院中学校（福岡市）60名
2022年度	実施なし
2023年度	10/25 城北埼玉高校（川崎市）49名、11/7 京都府立亀岡高校（亀岡市）120名、11/9 京都府立亀岡高校（亀岡市）80名

3. プログラムの概要

(1) 運営体制

小林ゼミの内部体制であるが、主に、通年を通して本プログラムに従事するコアメンバーが中心となって、プログラムを実施している（図1）。具体的に今年度の状況を見ると、コアメンバーは6名（2～4年生：各2名）おり、JTBの担当者との打ち合わせ、地域の方へのインタビュー依頼・調整、当日のワークショップ会場の手配設営、当日のグループ分けや細かいスケジュールの作成、当日の進行を担っている。他のゼミ生は、実施の数か月前程度からフィールドワークのコースやガイド内容の作成、当日のワークショップのファシリテーターを担っている。3つのコースにゼミ生を各10名配置し、さらに各コースを5つのグループ（2・3年生ペアあるいは2・4年生ペア）に分け実施している。1グループには、大学生2名、高校生7名程度の計9～10名程度を基本人数としてグループを構成し、プログラム中は同じグループで行動している。

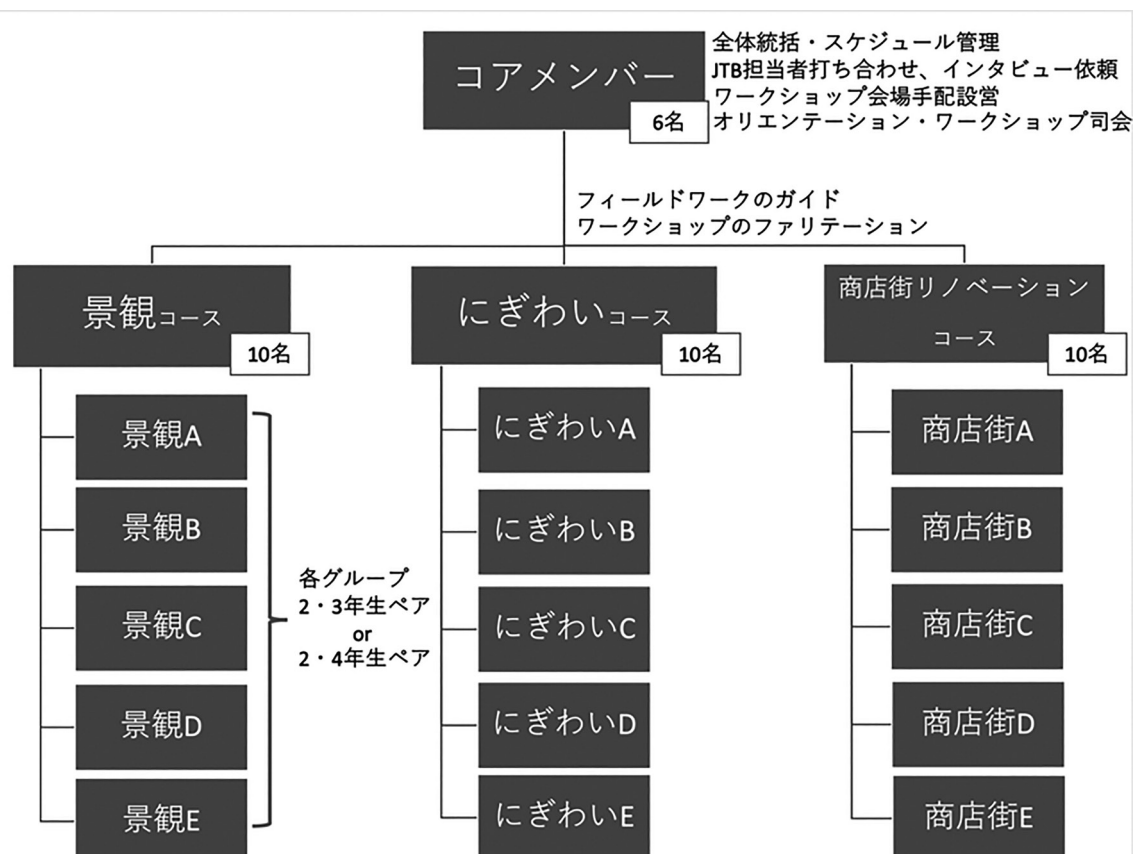


図1：小林ゼミの内部体制

次に、本プログラムのステークホルダーであるが（図2）、北九州市立大学地域創生学群小林ゼミ、株式会社JTB北九州支店、株式会社JTBの受入先担当支店、地域の方（インタビュー先）、中学校・高校（受入先）が挙げられる（図2）。小林ゼミのコアメンバーと各主体との関係は、JTB北九州支店の担当者との間では、受け入れ先の依頼や情報共有、当日のスケジュールや内容の打ち合わせ、調整などを行い、念入りに情報共有を行う。地域の方とは、「景観」、「にぎわい」、「商店街・リノベーション」の三つのテーマに沿ったお話をしていただける行政職員や企業、店舗等を探し、インタビューの依頼を行う。その後、メールのやり取りや訪問を重ね、調整を行う。株式会社JTBの受入先担当支店とは、当日のプログラムの内容打ち合わせを行う。高校とは、プログラム実施当日のガイドやファシリテーターを行う。

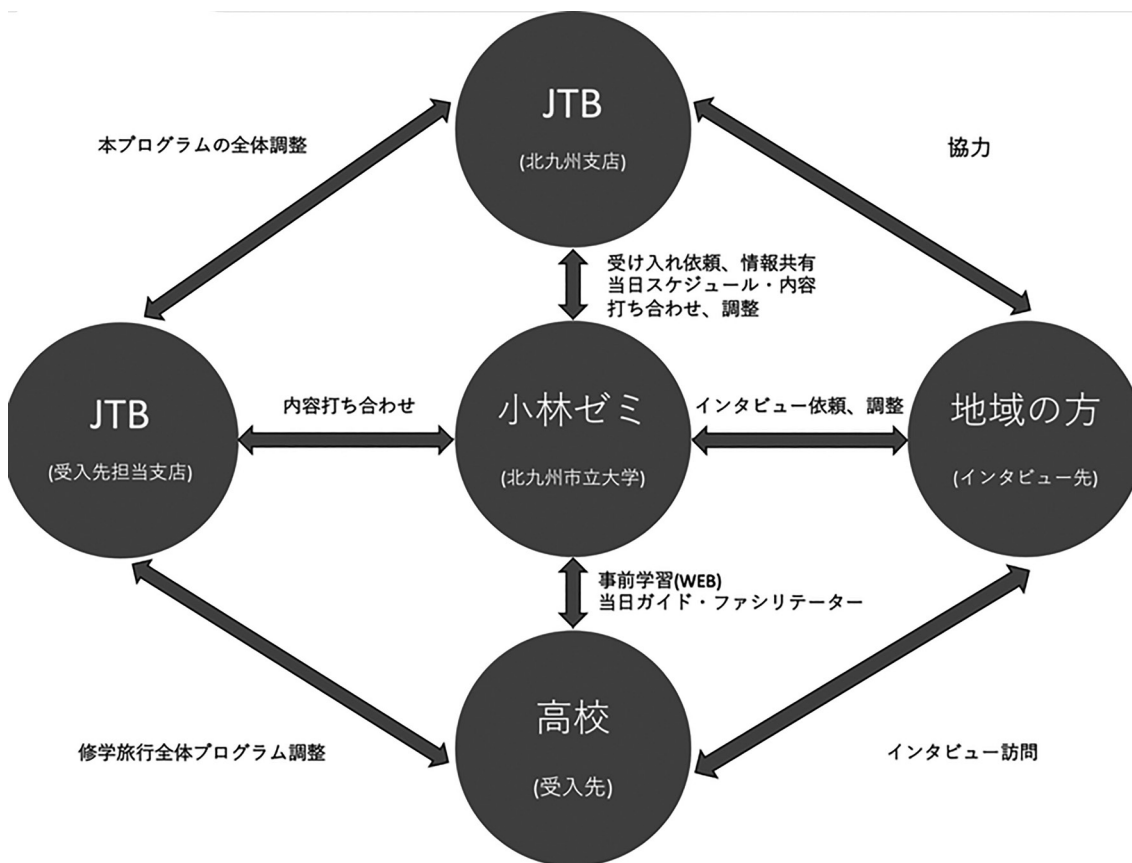


図2：ステークホルダーの関係図

(2) プログラム実施当日のスケジュール

ここでは、昨年実施した2つの高校を例に、プログラム実施当日のスケジュールを説明する(表2)。

表2：プログラム当日のタイムスケジュール

start	end	min	コンテンツ	備考
10:58	11:13		大学生JR乗車	JR：小倉駅10:58発ー門司港駅11:13着
11:24	11:40	16	大学生バス乗車	西鉄バス：門司港駅11:24発ー和布刈駅11:40着
11:40	11:40	0	大学生集合	関門海峡めかり駅
11:40	12:10	30	準備確認	名札、バインダー、手持ちマップ、マイクの準備
12:10	12:10	0	高校生到着	関門海峡めかり駅到着(和布刈公園バス駐車場)
12:10	12:30	20	アイスブレイク	自己紹介、名札配布
12:30	12:40	10	トロッコ列車乗車	貸切乗車約80名
12:40	13:40	60	昼食	各班大学生高校生一緒に昼食
13:40	13:40	0	門司港駅集合	
13:40	13:50	10	オリエンテーション	
13:50	15:20	90	まちあるき	S：門司港駅→G：門司港レトロ観光物産館多目的ホール2F
15:20	15:30	10	トイレ休憩	
15:30	16:30	60	ワークショップ	会場:門司港レトロ観光物産館多目的ホール2F
16:30	16:40	10	まとめ	
16:40	16:40	0	高校生お見送り	早く終わり次第買い物時間(高校生)
17:00	17:00	0	解散	

インタビュー時間(20min)

コース	インタビュー先	グループ	訪問時間	インタビュー場所
景観	門司港駅	A	14:50~15:10	駅舎
	区役所レトロ課	B	14:50~15:10	港ハウスの外
にぎわい	プレミアホテル	C	14:10~14:30	ホテル
	美術工芸研究所	D.E	14:50~15:10	港ハウス2階
商店街	山口酒店	F	14:30~ 14:50	店前
	山吹蒲鉾店	G	14:30~ 14:50	店前
	島田酒店	H	14:30~ 14:50	店前

① アイスブレイク・オリエンテーション

高校生が北九州銀行レトロライン門司港レトロの関門海峡めかり駅に到着後、観光列車「潮風号」に乗車し(写真1)、終点の九州鉄道記念館駅で下車後、フィールドワークのスタート地点である門司港駅前各グループに分かれて自己紹介を行う(写真2)。所要時間は約30分~40分を設定している。



写真1：潮風号乗車中の様子



写真2：自己紹介をしている様子

②フィールドワーク

景観、にぎわい、商店街・リノベーションの3つのコースに分かれ（図3～5）、門司港レトロ地区と栄町銀天街のまちを歩き、大学生による各スポットのガイドや地域の方へのインタビューを行う（写真3、4）。フィールドワークの所要時間は約90分を設定している。

■景観コース：歴史的建造物が立ち並ぶ門司港レトロ地区を中心に、まち並みの特徴や景観保全の取り組みや工夫を見つける。インタビュー先は、門司港駅（駅長）と門司区役所レトロ課（市職員）に依頼し実施した。

■にぎわいコース：観光地として有名な門司港レトロ地区を中心に、にぎわいを生むための取り組みや仕掛けを見つける。インタビュー先は、プレミアムホテル門司港（社員）と門司港美術工芸研究所（所長）に依頼し実施した。

■商店街・リノベーションコース：地域住民を支える栄町銀天街を中心に、昔と今の変化や地域のディープな部分を知る。インタビュー先は、栄町商店街の店舗（山口酒店、山吹蒲鉾、島田酒店の各店主あるいは従業員）に依頼し実施した。

あるこう！もじこう！ 景観ルート

11/7(火)京都市立亀岡高校120名

- 13:40 ●開門海峽ミュージアム
- 13:50~ ●門司港駅-A,B,C
- 14:05 ●北九州銀行
- 旧門司三井倶楽部
- 海峡プラザ
- 親水広場
- 鎮西橋公園
- mojicoオブジェ
- 旧門司税関
- 大連友好記念館
- 門司港レトロハイマート
- 境界線
- 14:30~ ●門司区役所レトロ課-D,E
- 14:45 ●ブルーウィングもじ
- プレミアホテル門司港
- 門司港海岸沿い
- 一丁倫敦
- 15:10 ●大連航路上屋

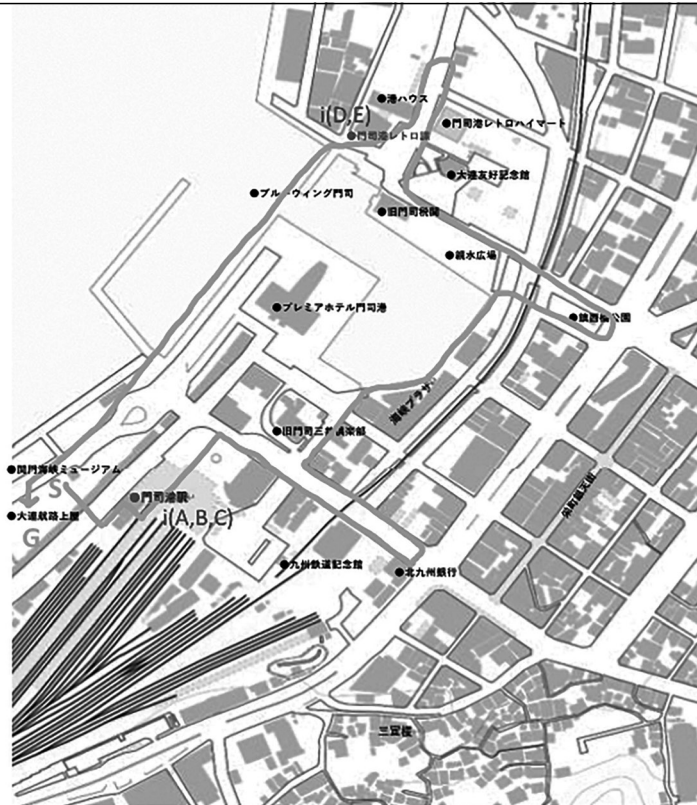


図3：景観コースのフィールドワークのコース、スポット、インタビュー先マップ

※図中の ● 印はスポットを、赤文字はインタビュー先、時間はインタビュー時間、黄色線と青線はルートを示している（図3～5共通）。また、高校生はこのマップを持参してフィールドワークを行う。



図4：にぎわいコースのフィールドワークのコース、スポット、インタビュー先マップ



図5：商店街・リノベーションコースのフィールドワークのコース、インタビュー先マップ



写真3：大学生がガイドをしている様子



写真4：島田酒店様へのインタビューの様子

③ ワークショップ

大学生がワークショップのファシリテーターとなって、各グループでフィールドワークの振り返りを行う。はじめにグループで、A0用紙のマップに実際に歩いたルートを記す。次に、黄色の付箋にまちの良かった点、青色の付箋にまちの課題や改善点を書き込み、フィールドワークでの気づきを共有する（写真5）。最後に、グループで作り上げたワークシート（A0用紙のマップ）を用いて、各グループの気づきを発表する（写真6）。



写真5：グループ内作業の様子



写真6：全体共有の様子

次に各グループでの発表の様子を簡単に紹介する。

景観コースのまちの良かった点は、「地域の人が協力してまちづくりを行っていた」、「マンションの外壁の色が工夫されていた」、「かつて栄えていた時代の門司港のまち並みを再現して、雰囲気統一することを重視している」、「下関の方までみえる駅前広場の設計になっている」、「門司港駅の駅舎がレトロを意識しているため、電車を降りたときから観光気分になれる」などが挙げられた。一方、課題や改善点は、「自動販売機やベンチがない」、「景観に配慮している影響からか、門司港駅の駅舎に駅名が書かれていない（わかりにくい）」、「景観に配慮したため点字ブロックの色（白系）が見えづらい」、「景観に配慮した路面のため（アスファルトではなく、石畳であるため）夜間、道路がみえにくいのではないか」、「ま

ち並みをみながら食べ歩きできるお店があるといい」、「商店街の柱の絵をもっと見つけた
いから、スタンプラリー作ると良い」などが挙げられた（写真7）。

にぎわいコースのまちの良かった点は、「まちの至る所に目的地になる得る場所がある
ことにより回遊性があがっている」、「まちのいろいろなところにハートマークが点在して
いることにより楽しみながら観光できる」、「海峡プラザやベンチがあることで滞在時間が
増える」などが挙げられた。一方、まちの課題や改善点は、「門司港駅の駅舎の中にある
エレベーターの位置が分かりにくく不便だと感じた」「レンタサイクルの貸し出し場所が
駅から遠くわかりにくいため、観光客が気づかないのではないか」「安全に（車道の中心
部で撮影しないと）mojiko オブジェの写真が撮れない（入らない）」などが挙げられた（写
真8）。

商店街コースのまちの良かった点は、「シャッターアートなどがまちに彩りを与えてい
た」、「売られているものが年齢層に合うよう工夫されていた」、「インタビュー先の店主さ
んが自身で雑誌やスタンプラリーを作成し、地域活性化のための工夫を感じられた」、「雰
囲気に合わせて建物がリノベーションされていた」、「mojiroji（ギャラリー）の雰囲気が
好きだった」などが挙げられた。一方、まちの課題や改善点として、「商店のシャッター
がほぼ閉まっている」、「道が狭く車が通れない、また危ない」、「標識や地図がないため、
路地などのまちの細部がわかりにくい」、「栄えているところとそうでない場所の差が大き
い」などが挙げられた（写真9）。

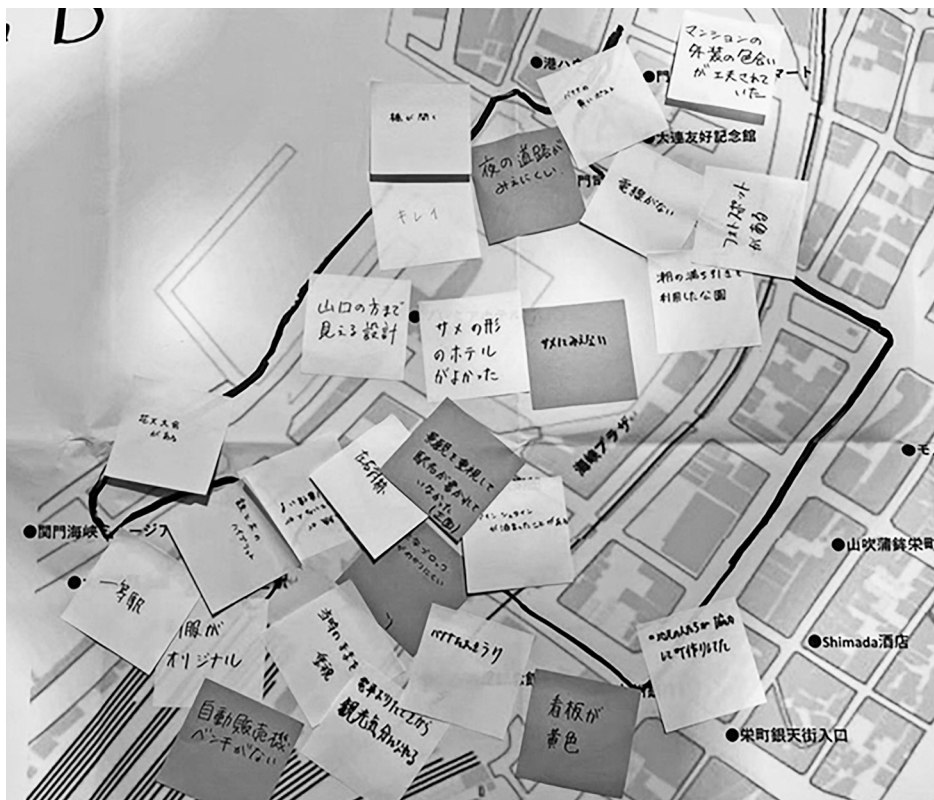


写真7：景観コースのワークショップの成果物

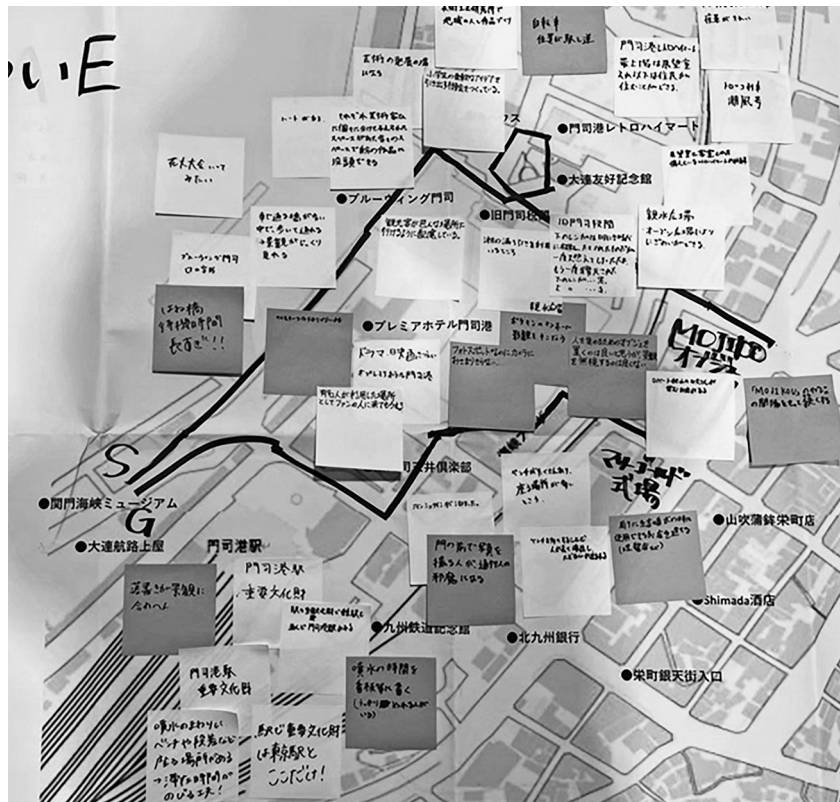


写真8：にぎわいコースのワークショップの成果物



写真9：商店街・リノベーションコースのワークショップの成果物



写真 10 : 城北埼玉高校 (10 月 25 日実施) の生徒との集合写真



写真 11 : 京都府立亀岡高校 (11 月 7 日実施) の生徒との集合写真



写真 1 2 : 京都府立亀岡高校 (11 月 9 日実施) の生徒との集合写真

4. 振り返り

(1) 受け入れ先の学校からの評価

昨年は修学旅行生へのアンケート調査を実施しなかったため、具体的な数値を用いての本プログラムの評価は難しいが、プログラム終了後に受け入れ先の学校の先生方からは、「受け入れ体制が整っていて、完成度も高かった」、「高校生の誘導を含め、しっかりとプログラムの進行を行ってくれてありがたかった」、「期待していた以上のプログラムの完成度だった」などのよい評価をいただいている。

(2) プログラムの反省点、課題

小林ゼミ内で実施した全体の振り返りでは、以下の内容が挙げられた。アイスブレイクやオリエンテーションでは、「自己紹介の時間が長すぎるのではないか」、「門司港レトロの基礎知識を全体で共有しておくことが必要」が挙げられた。フィールドワークでは、「インタビュー先への質問を高校生と一緒に考える」、「大学生も質問を準備しておくべきではないか」、「まちあるきの進捗状況に応じたインタビューの時間の調整が必要」、「高校生の出身地を事前に調査し、まち並みを比較する」、「インタビューの時間管理を徹底する」、「インタビュー先へ話してほしいことを事前に明確に提示しておく」ことなどが挙げられた。ワークショップでは、「作業と発表のメリハリをつける」などが挙げられた。

以上の振り返りを踏まえ、今後はさらに質の高いプログラムの内容にしていきたいと考

える。

(3) プログラムの実施を通しての学び

このプログラムを通して得た学びは、2つあると考える。まず、他の地域に住む人々や違う年代の人とのコミュニケーションから、様々な立場の方の新しい視点を得ることができた。さらに、門司港エリアという地域を対象に、実際にそこで暮らし活動する地域の方の取り組み見たり、聞いたり、触れることを通して、門司港の歴史やまちづくりについてガイドを行ったことにより、地域の活性化、まちづくりをより自分事として捉えることができた。

これらの経験を踏まえた上で身につけたスキルは、4つあると考える。①まちあるきのガイドやスケジュール作成、プログラム運営を通して、時間管理能力が身についた。②意見を引き出し、円滑にワークショップを進めるファシリテーション能力や相手に合わせたコミュニケーション能力が身についた。③予想外の出来事が起きても臨機応変に対応するリスクマネジメント能力が身についた。④株式会社 JTB の担当者やインタビュー先の方々との関係構築を通して、調整力が身についた。これらの学びやスキルは、将来、社会に出た際の即戦力としていかせると考える。

5. 次年度（2024年度）の実施予定

2024年度の「あるこう！もじこう！」のプログラムは、2024年6月14日（金）に浅野高校（横浜市）、2024年10月23日（水）に城北埼玉高校（川越市）が予定されている。浅野高校は、2018年以來の2回目の実施予定となっている。また、城北埼玉高校は、今年度に引き続き2年連続での実施を予定している。2校とも継続した実施であり、継続できている要因として、本プログラムに対する高い評価があることが考えられ、その背景には、代々先輩たちから、ある程度、形になっているプログラムを引き継ぐだけでなく、常に修正、改善し、よりよいプログラムを造成することを心掛けていることがあげられる。プログラム開始から7年目を迎える小林ゼミの本プログラムが、修学旅行生に良質な学習の場を提供しつつ、大学生にとっても、コミュニケーション能力・社会や仲間と関わる力・主体性・実行力の向上などにもつながっていることがわかる。

今後は、修学旅行生の満足度だけでなく、さらに理解度を高めるために事前学習に注力していきたい。具体的には、事前学習用に、門司港の基礎知識を学習できる穴埋め式ワークシートなどを作成する予定である。また、フィールドワークのスポットやインタビュー先のさらなる修正や、修学旅行生がより主体的に自分事として地域課題を考えられるように努めていきたい。